

協議会ニュース 41号

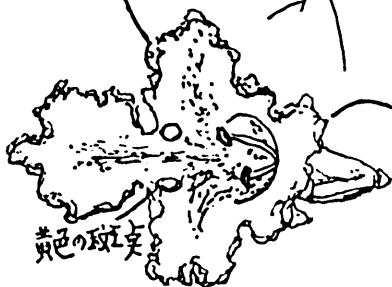
愛知県自然観察指導員連絡協議会 1992. 9

キササゲ (ノウゼンカズラ科)

1992. 8. 5 (家から約1000mの寺にて)

樹高 8.0m 囲 80cm

後藤 春



6月下旬 大きさ2.5cm程の黄色い花が
円錐状の穂に付いて咲いていました。
花も見当りは今年が初めてです。

実の長さ 20.5cm 30.



『自然観察マップ』大募集！

協議会では、平成四年度から当分の間、「自然観察マップ」を作成し、会員等に配付していくこととなりました。作成の趣旨等は以下の通りです。多くの会員の参加をお願いします。

1. 趣 旨

自然観察適地の紹介、観察マップのよりよい作成方法の検討及び県下の自然のデータ保存を目的として、「自然観察マップ」を作成する。

2. 内 容

自然観察会実施場所又は個人、支部のフィールド等の自然の状況及び観察方法をまとめたものとして作成する。最初に地域の概念図を入れるほかは、内容、記述方法等は自由とする。なお、地域の自然の現況を把握するという意味を持たせるため、なるべく日付を入れた観察事例や現況図等を加えたい。

3. 原稿作成

原稿は支部、グループ、個人で作成する。

4. 原稿の様式等

(1) 体裁

標準の体裁は、A5版、縦型、左綴じとしページ数は、原則として4～20ページ（偶数ページ）とする。なお、これにより難い場合は、自由に変更してもよい（最大の大きさはB4）。

(2) 作成内容

1ページ目（表紙）は、上部5cm程度をタイトルスペースとし、原則として別記のように作成する。その下には、現地の概念図及び交通手段を書くこととする。2ページ以降の内容及びまとめ方は任意とする。なお、原稿作成者及び発行期日は巻末に表示する。

(3) 注意事項

- ・採集される恐れのある貴重な動植物は、記載しないこととする。
- ・「観察マップ」というシリーズであるので、

なるべくコース案内図、観察ポイントの詳細図等の地図を入れること。

- ・図はなるべく丁寧に書く。

5. 発 行

作成された原稿は、事務局で誤りの有無等を検討し、編集（ワープロ作成、コピー刷り）する。発行は、作成された順に適宜行い、会員及び希望者に配付するとともに自然観察会等で利用する。

6. 事務局

普及部会で担当する。

原稿送付先

佐藤 国彦

〒470-01 愛知郡日進町南ヶ丘2-18-11

北岡由美子

〒489 瀬戸市柳ヶ坪町98-5

タイトルの記載例

自然観察マップ 1

小 幡 緑 地 の 自 然 (春)

愛知県自然観察指導員連絡協議会

～年報「愛知の自然観察」執筆者募集～

今春、会員の研究発表の場・協議会の年鑑として年報「愛知の自然観察」第1号が発行されました。引き続き、来春の3月の予定で第2号を発行する予定です。

そこで、原稿をひろく会員から募集したいと思います。内容は、①自然観察の理論・実践研究 ②自然観察会の実践研究 ③地域の自然に関する研究 ④会の活動報告 ⑤その他です。原稿締切りは明年1月31日で時間的余裕はありますのでふるってご応募下さい。

・申込先

〔編集部会〕神戸 敦

豊橋市多米中町1-12-3 ☎0532-62-5308

運営・普及合同部会会議報告

7月5日(日)、名古屋の中小企業センターで運営部会と普及部会の合同会議が開かれました。以下報告します。

Ⅰ. 参加者

佐藤国彦・斎竹善行・近藤盛英・篠田陽作
三輪治代美・水島富人・竹内哲也・吉田義人
山田博一・鬼頭 弘・西村 弘・橋本 哲
東 義巳・間瀬美子

Ⅱ. 内 容

1. 平成4年度事業実施状況

- ① 冊子(有料)に当協議会のことを事務局等に無断で載せ、かつ内容に誤りがあったことについて公害対策愛知連絡会議会長宛に抗議文を出したこと。

協議会が共催・後援する場合でも少なくとも会長には了解を得ること。(佐藤)

- ② その他、実施状況報告。

2. 今後の事業の進め方について

① 指導員研修会

予定として、石巻山(豊橋市)で12月5日～6日に行う。宿泊費は8,000円程度。

② 「自然観察マップ」の作成について

おおむね原案了承

- ③ 機関誌の年報「愛知の自然観察」の件
内容は、今日の意見をもとに事務局で検討し、次回の理事会で定める。

(主な意見)

- ・ 年報を作成する目的がはっきりすれば、内容は自ずと決まって来る。
- ・ 1年間に協議会等が行ったことをまとめて会員に報告するとともに、会員の研究発表の場とするのが適当ではないか。
- ・ 協議会活動の内容、成果を対外的に発表するという性格を持たせたい。
- ・ 執筆者が偏らないように。
- ・ 今年のは、字が小さく写真がきれいではなかった。
- ・ 年ごとテーマを定めるとよい。

3. 全県一斉自然観察会の実施結果について

① 結果

6月7日(日)・県内6カ所

テーマ『トトロの森をさがそう』

参加者：一般119名、指導員60名

② 今後について

全県一斉観察会は来年度以降も続ける方向で検討する。

(採決：内容を変えて続ける11、現状で続ける0、中止する1)

(主な意見)

- ・ 各支部とも毎年一斉観察会を行うという意識になっているので止めることもない。
- ・ 内容は変えていくのがよい。例えば子供向けにする等。
- ・ 一斉にするからには簡単な調査等を加えればより効果がある。
- ・ 一斉観察会といっても同一の日にこだわらなくてもよい。

4. 指導員の再登録と指導員研修について

指導員再登録時に研修会を義務付けてはどうかとの理事会で出た意見に基づき意見交換を行う。

(結論)

本日はまとまった意見が出なかったので、事務局でいくつかの例を考え再検討する。

(主な意見)

- ・ 会に加入した最初に出てこないとだんだん出にくくなる。初めが肝心である。
- ・ 指導員を育てるなら、手取り足取りで新人研修を行う必要がある。
- ・ 会員を行事に呼び出す役割を持った人を各支部に置く必要もある。
- ・ 東三河支部では、1年に1度は繋がりを持つよう心掛けている。また、3つの班に分けて行事を企画するようにしている。
- ・ 指導員の再登録時に研修を行うとしても、義務付けることは無理である。
- ・ 同窓会的に行うならばある程度の出席は期待できると思われる。

観察会報告

尾張支部 視察観察会

岐阜県大川原ナ原生林と大倉山

尾張支部 曾我部行子

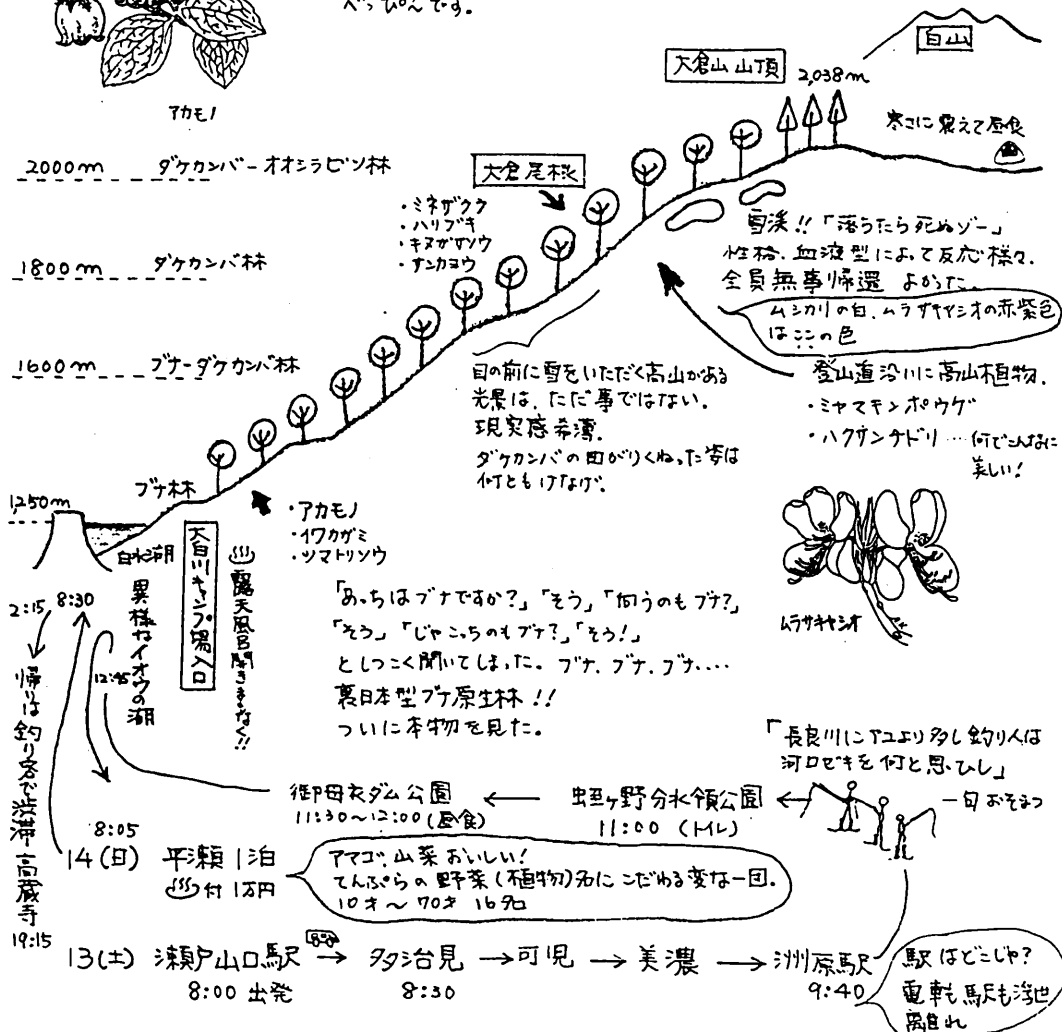
初夏のブナ林は一年で一番美しい時期です。6月13日から14日にかけて、尾張支部の特別企画第2弾、ブナ原生林と高山植物観察会が開かれました。

天候にも恵まれ、指導員と友の会の16名は、裏日本型のブナ林とちょっと恐い残雪そしてハクサンチドリ・キヌガサソウなどを心ゆくまで楽しむことができました。



アカモノ

アカモノとは、白いスズラン状の小花で、花びらの先が赤いをはいたように赤い。高山の可憐な花。べっぴんです。



五社稲荷観察会

(全県一斉・6月7日)

東三河支部 天野 保幸

テーマ：トトロの森を探そう

段丘崖の森と泉をたずねて

参加者：一般12人、指導員12人合計24人

当日の観察：①五社稲荷の森をたずねて

②森を遠くから眺めよう

③田のまわりの生き物は

④湧き水とそこに見られる植物

⑤菟足神社の森をたずねて

梅雨の走りと思っていたら、本格的な梅雨入りを迎えた当日でした。この天候のせいか、参加者の出足もかんばしくなく、開始時刻が近づいてもなかなか集まって来ません。時間ぎりぎりに地元の方3名ほどが駆けつけてくれ、やっと12名、指導員と同数になりました。

まず、初めに会長さんの挨拶、続いて担当の私から概要の説明と続いて県の資料による森の遷移の話を聞いてもらいました。このころは、まだ雨は降っていませんでした。

ところが、①の五社稲荷の森の説明に入るところから雨が落ちてきました。すぐに傘をさす人、車に傘を持ちに行く人と一寸、混乱しましたがすぐ傘をさしての観察会が再開されました。拝殿の横におかれた神木であったクロマツを使ってつくった衝立の大きさに感心させられました。その後は自然林・人工林の観察と続き、次のポイントに移る頃には雨もあがっていました。

②のポイントに移動の途中にアオダイショウと思われるヘビのほぼ完全なぬけがらを見つけました。また、移動中にジャンボタニシを探したり、その卵塊を落としたりしながら、移動中も変化があり楽しいものでした。②・③のポイントでスケッチをし、ジャンボタニシの話を聞きました。卵塊の鮮やかな赤色に魅せられたのもこの時でした。

④では湧き水の話聞き、野生化したクレソンの辛さを味わいました。次の⑤に移るとき、

また雨、再度、傘をさしながらの観察会となってしまいました。⑤のなかで、貝塚の所にオオケマイマイやオカタニシが見られ、一時話に花が咲きました。

梅雨空の下、少人数の観察会でしたが内容的には実のあるものがだったと自負しています。協力していただいた指導員の皆様に感謝いたします。

東海市姫島児童館

7月22日(水) 知多支部2名派遣

内容

草花を集めて、たたき染め
和紙染め・ゲーム遊び

常滑市鬼崎公民館

7月25日(土) 知多支部4名派遣

内容

家庭教育学級(幼児用)
親子で自然観察をした。

知多支部会員研修(7月26日)

♡阿久比町殿越川の生き物

ドジョウ・メダカ・ヨウノボリ・イシカメ
ウシガエル・ミミズ・オオタニシ・マシジミ・
サカマキガイ・タイコウチ・コガタシマトビ
ケラ・サホコカゲロウ・ガガンボ・アメンボ・
ミズムシ・ヒメタイコウチ・アメリカザリガ
ニ・ヒル・タンスイカイメン

♣阿久比町福山川の生き物

ドジョウ・カワムシ・フナ・モツゴ・オタマ
ジャクシ(4種)・タイコウチ・ミズカマキ
リ・コオイムシ・コミズムシ・ヤゴ(イトト
ンボ(2種)・マツモムシ・アメンボ・モノ
アラガイ・オオタニシ・カワニナ・オカモノ
アラガイ・セスジユスリカ・ヒル(セスジヒ
ル・ハバヒロヒル・イシビル)・アメリカザ
リガニ・サホコカゲロウ

賀茂神社自然観察会

(7月12日)

東三河支部 戸河里光雄

テーマ：トトロの森をさがそうⅡ

朝起きたら、雨、雨、雨・・・。これはいかなあ・・・と思っていたら7時過ぎから晴れてきました。運がいいなあ。

さて、観察会の受付をしていると子供たちがやってきました。しかし、広報の悪さもあってか、子供たちだけをおいていく親が多かったのが今回の特徴でした。参加者は一般31名、指導員16名でした。



内容は①牟呂用水の水、②自動販売機、③森を眺めよう、④古墳、⑤陽樹の森、⑥人為的林・景色を眺めようでした。

今、話題の環境問題として水・自動販売機のゴミなどを扱いました。

また、トトロの森をさがそうというテーマにしたがって自然度の高い森とはどのようなところかを考えてもらいました。また、ここの特徴である古墳にも注目していきました。その中で次のようなネイチャーゲームを取り入れたのが今回の特徴です。

森で遊ぼう（宝さがしゲーム）

下のに書いてあるものをさがそう

- 1)とがったもの 2)丸いもの 3)三角のもの
- 4)四角いもの 5)赤いもの 6)黄色のもの
- 7)生物のたべあと 8)生物の糞^{うんち} 9)生き物

まだ消化不良でうまくいきませんでしたが、子供の多い観察会では有効な手立てだと思えます。本当にご苦労さまでした。

簡単なウッドクラフト ③

名古屋支部 椿 幹雄

竹を利用して、下駄箱や冷蔵庫などの脱臭剤をつくってみませんか？

I. 準備品

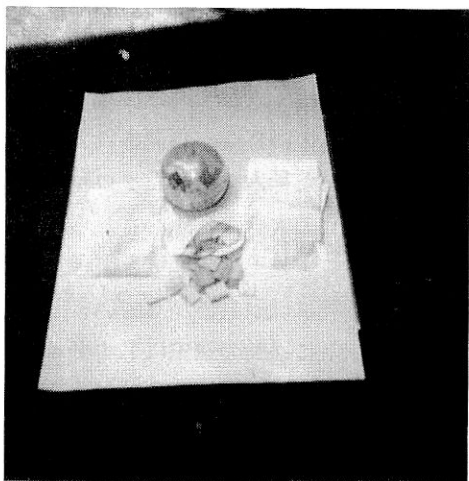
- 1) 孟宗竹（1節の半割）
- 2) 鋸
- 3) ナイフ
- 4) お茶パック・布袋・プラスチック容器

II. 作り方

- 1) 竹をナイフで15mm程の幅に割り揃える。
- 2) 表皮（青い所）をナイフで剥ぐ。
- 3) 鋸で長さを20mm程に切り揃える。
- 4) 水洗いして乾かした後、お茶パック等容器に入れて完成。

III. 孟宗竹の使用

孟宗竹には組織に細かい気泡が多くあるので、匂いの吸着力が高く脱臭力はヤシガラ活性炭より優れている。表皮には除菌作用があります。



私の職場

東三河支部 岩崎 員郎

私の勤務先は愛知県栽培漁業協会ですが、一般的には栽培漁業センターと言っています。場所はやしの実で有名な伊良湖から三河湾側に立馬崎までの西浜に広がる広大な黒松林の中にあります。この黒松林は冬の季節風を遮り、海岸の砂が後背地に飛ぶのを防ぐ飛砂防備保安林となっています。栽培漁業センターのあたりではこの保安林の幅は約600mもあります。

松林に囲まれた私の職場は、非常に自然に恵まれています。春になると松の梢でホオジロがさえずりますし、またハルゼミの鳴き声を楽しむことができます。林の中にはノウサギも住んでおり、今年はキツネも見ました。夏になるとニイニイゼミが鳴き、夜はヨタカの声も聞こえます。秋になると松林にはハツタケがたくさん生えます。晩秋にはシモコシ（こちらではキシメジと言っている）が生えるため、雨の降った翌日などは、近くのおばあさんたちが朝早くから林の中を行ったり来たりして、キノコ採りに一生懸命です。我々も昼休みを待ってシモコシを採ります。以前はショウロもたくさんあったのですが、最近はあまり目にしなくなりました。他にイグチの仲間もたくさん生えます。

こうした恵まれた自然環境の中に私の職場はありますが、敷地内の独身寮に住む若者にとっては人家から離れた寂しい場所のようです。

私の職場の主な仕事は、魚介類の子供を作る事です。こうした作業を種苗生産と言いますが、親から卵をとって孵化させ、餌を与えて大きく育てます。

今栽培漁業センターで種苗生産している魚種は、クルマエビ、ガザミ、クロダイ、アユ、アワビ、アカガイですが、平成5年度からアカガイに代えてナマコの種苗生産が始まります。これらを飼育したり、餌を培養するための大小の水槽がいくつも並んでいます。

これらの子供は非常に小さく、病気や環境の変化に弱いので、飼育には大変気を使います。当然土曜日、日曜日にも餌を与えたり飼育水を交換したりしなければならず、代わる代わる当番で仕事です。また、成長に合わせて与える餌の種類や粒の大きさを変えなければならず、なかなか面倒です。最近は配合飼料が良くなり、飼育の機械化によりかなり労働が楽になりました。

これらの魚介類は海の中で非常にたくさんの卵を産みますが、小さな時期に餌がなくて死んだり他の生き物に食べられたりして、大きくなるのはほんの僅かです。こうした危険の大きな時期を人の手で育て、十分一人で生きていける大きさにして海に放流し、その後は自然の餌を食べ大きく育ったものを漁獲するのが栽培漁業です。

埋め立てによる干潟の減少や海の汚染、乱獲などにより漁業者にとって重要な魚介類が減って来ているため、これらの子供を放流して少しでもたくさん漁獲できるようにするため、種苗生産をしています。

しかし、いくら放流してもこれらが育つ干潟がなくなったり、海の汚染が進んでは何にもなりません。観察会においても機会ある毎に干潟の重要性、海洋汚染の防止を話しています。

栽培漁業協会の見学は平日はできますので、機会がありましたらおいで下さい。

軽石 -- 火山のおくりもの --

東三河支部 高橋 康夫

風呂場でかさかさの足の裏へ、ゴシゴシとこすりつけて、スベスベの地肌になると、とても気持ちがいいですね。そんなとき、昔から使われている用具が「軽石」です。名の通り、とても軽くて水に浮いてしまいます。当たり前のことですが、水よりも比重が小さいからです。

ふつうでは、石は水に沈むのに軽石はどうして浮いてしまうのでしょうか。昨年、フィリピンでのピナツポ山、日本の雲仙普賢岳の噴火が起こり、地元では大変な災害を引き起こしました。現在でも、相変わらず活動が続いており、地元の人たちは心配しながらの、不便な生活に耐えています。

火山は地下のマグマの活動で、どろどろ溶けたマグマが高い温度と圧力のもとで作られ、地表のすきまに沿って上ってきます。

これが火山活動で噴火のとき、地表に噴き出た圧力の高いマグマが空気中に放り出されると、小さな風船が急に含むように膨張が起こります。全体が膨らみながら、マグマに含

まれていた気体の成分がどんどん逃げていくと、ちょうどふかしパンのような物ができあがります。これが「軽石」です。

海底火山で噴火が起これば、噴出したもののうち、軽石は海を漂いやがて海岸へ流れつきます。



「豊田市自然観察の森」からの便り

9～10月の森、湿地、空のようす

尾張支部 長尾 智

森の中から、チンチンチンとカネタタキの音色、チッチッチとチッチッゼミの声が聞こえてきます。

観察路の両脇には、キンミズヒキ、シラヤマギク、アキノタムラソウ、ツルリンドウ、オミナエシの花が咲いています。

森を抜けて、上池のブラインドから水面を見渡すと、一面タヌキモの黄色の花で覆われた景色が眺められます。

休耕田の畦道には、びっしりとミソカクシのピンク色の花、アシに絡みついたコバノカモメヅルにはエンジ色の地味な花がついています。

田の上空では、ナツアカネ、アキアカネ、マユタテアカネ、ヒメアカネ、ノシメトンボ、ネキトンボ、ウスバキトンボが舞っています。

木道の通った湿地には、サワギキョウ、キセルアザミ、ツリガネニンジン、ワレモコウの花

がしっとりと咲いています。

アサギマダラが、透き徹った浅葱色の羽をはばたいて、樹間を通り抜けて行きます。

日本で繁殖を終え、渡りの途中、木の上に止まって翼を休めているサシバやハチクマの姿を時々見かけます。

これらの蝶や鳥は、これから渥美半島を縦断し、その先端から紀伊半島へ渡って行くのでしよう。かつて見たそんな光景を思い出しながらネイチャーセンターへ帰って来ました。



アサギマダラ



サシバ

自然観察施設訪問8

－豊田自然観察の森－

中西 正

自然観察施設は、特色ある自然に触れるためにあることが多い。結果的に、国立公園のような、自然が色濃く残されたところに置かれている。しかし、豊田自然観察の森はコナラ・アカマツ群落で、特色ある自然といえるものはない。では、なぜここが自然観察の森なのだろうか。

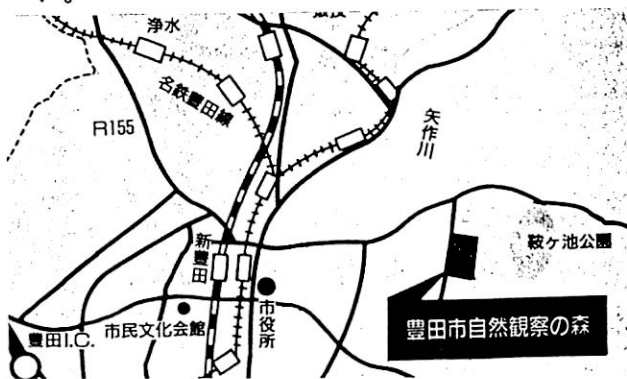
駐車場からネイチャーセンターまでは、アップダウンのある林の中の道だ。まず自然を見てくざいと言っているようだ。真新しいセンターは二階建てで、入ると右が受付カウンター、その奥が事務室になっている。左側は資料・図書コーナーを挟んで展示室がある。壁にはこの森の説明があり、中央は季節展示のための空間になっている。二階は45名入れる研修室と会議室がある。ただ、このセンターは建物の材質のためか、作られて日が浅いためか、自然観察施設で感じるぬくもりが少なかった。

なぜここが自然観察の森か、と言う問いに対する一つの答が、壁にかけてある空中写真が示してくれた。豊田市でも東部地域は緑のゾーンである。しかし、この森の近くには六か所のゴルフ場が見られる。ゴルフ場はげ上がり、いかにも開発真っ只中と言う感じだ。この写真の中、もう三か所のゴルフ場が写っている。コナラ・アカマツの林でも、都市の人間にとっては、今やかけがえのない自然ではないか。だったら、そこに入るために、ネイチャーセンターで説明を受ける価値が十分ある。

なぜここが自然観察の森か、に対するもう一つの答はとくに私たちは持ち合わせている。どのような自然であっても、そこには生物が生活し、興味深い自然現象を見せてくれている。季節ごと、年ごとに自然は変化していることだろう。この中を説明を受けながら歩けば、自然に対して興味深さを感じるに違いない。ありがたいことに説明を受けたい人には、我々の仲間

の自然観察指導員がガイドしてくれるという。また、日曜を中心として年間いろいろな行事が組まれている。

自然観察の森は全国に10ヶ所あるというが、豊田自然観察の森は、今のところその機能を十分発揮していないのではないだろうか。働きの一つである自然の防波堤はいいとしても、自然解説による自然理解者の増加という働きかけが弱いような気がする。この森の自然はどこにもあるだけに、訪問者を満足させ、何回も足を運ばせるにはそれなりの努力が必要である。ハードの点ではネイチャーセンターを初めとして、カワセミ小屋や探鳥ブラインドなど観察小屋もいくつかできている。観察トレイルも森の中、丘の上、湿地と多様につけられている。このような施設を生かすのはソフト面の充実、特に人－解説員－の役割が大切と思われた。その活動の中で、ビジターセンターにぬくもりが出てきて、自分たちの施設だというファン層が生まれてくるのではなかろうか。私たちにとっても大切な施設だけに、何回も足を運びたいような森に育ってほしいと思わずに入られない。



自然だより



ものみ山だより

—— 21世紀愛知万博予定地 ——

尾張支部 北岡由美子

海上の森には、立秋を過ぎたら、ちゃんとワレモコウが咲いていました。子供の頃には当たり前の花だったのち、今は悲しいことに珍しいという感じです。ワレモコウをみると、一瞬、子供の頃にタイムスリップしてしまいますが、今の子供たちは大人になった時もオニヤンマやサワガニが身近にいて、オニヤンマのすいこまれそうな緑色の美しい目を見たり、サワガニをつかまえたりして、ふと子供の頃の思い出の中に返れるのかなーと考えてしまいます。子供たちが大人になった時、子供の頃に親しんだものがなくなっていたら、どのようにして昔に帰るのでしょうか。前だけを見て生きていかなければならないのは、とても辛いことのように思います。人生の後半もどこか淋しい気がします。

海上の森の里は夏は昆虫達の宝庫です。初夏のホテルに始まり、ドジョウ・タニシ・ハンミョウ・サワガニ・オニヤンマ・その他トンボ類沢山、カブトムシ・クワガタムシ・オサムシ・その他甲虫類沢山、アカトンボ沢山、オオムラサキ・・・数え上げればきりがありません。森や里を歩くたびに、ここがそのまま残ればヒトと生き物の天国なのだと思います。

～犬山発自然情報 Naturig NO.35、7/7～

大竹 勝 発行より

スズサイコが見つかりました

自然観察指導員の岩田不二子さんが6月28日塔野地の新郷瀬川の堤防でスズサイコを確認されました。岩田さんによれば、この花は夜、咲くようだとのことで、7月1日、仕事が終わってから確認に出掛けました。5時30分に着いたのですが一つも花を開いていません。6時になってやっと花を開きました。緑色の小さな花で

す。開いてしまうと花弁は平らではなく、外側にめくれ、弁が細く見えます。いつまで開いているのかと、翌朝、出掛けてみると9時には半開状態で10時には閉じてしまいました。2～3日観察してみたのですが、天気の良いときも曇りの時も大体同じ時間に開きます。井波一雄先生にお伺いしたところ、「最近は見かけなくなりました。愛知県版レッドデータブックに載せる必要があるのではないのでしょうか。」とのことでした。この自生地は100 m位の間で半分以上の草が刈り取られていましたが、残った草の中に見られたのが70本位でしたから、草が刈り取られる前は、100 本以上自生していたと思われるかもしれません。これだけ多く自生しているのはおそらく県下随一ではないかと思われます。この場所は昔の面影の残る堤防でオカトラノオも多くの花をつけカワラマツバの白い花も見られます。ワレモコウやカワラナデシコ、ツリガネニンジン姿も見られ、ススキにカヤネズミの巣が4個も見つかりました。

ここもいずれ河川改修で姿を消すことになりそうですがこのままの姿で残したいものです。犬山市史の記録にはもちろんありません。初めての記録です。山の中では、よく記録されますがこのような田んぼの中の自然はあまり顧みられなかった場所です。最近の土地改良や河川改修で一番急激に変化している場所です。このような所で、記録もされず消えていく植物がまだまだ多くあるのではないかと心配です。

生き物たちの声

奥三河支部 金田 泉

早朝、チョットコイ、チョットコイといつもさえずる野鳥がいて、何がさえずっているのか気になっていた。ある時、身近な野鳥を取り上げたビデオを見る機会があり、そこで、コジュケイであることを知った。なんとなく胸のつかえのおりたすがすがしい気分であった。今まで野鳥観察していてコジュケイという野鳥は以前別の場所にて観察して知っていた。しかし、野

鳥の姿とさえずりが結びつかなかった。このごろよく聞くさえずりはホオジロであり、雲ひとつない青空と澄みきった空気という場所がとても良く似合うさえずりである。

夕方、犬の散歩がてら杉木立ちの中を歩くとこの頃はヒグラシとニイニイゼミがよく鳴いている。草むらでは、キリギリスが鳴いている。

こうした生き物たちの声は、聞こえる人には感動をもって胸に響いて聞こえることだろう。生き物たちの声をもっともっと深く知り、関わられたら、より一層身近なものになり、親しみがわき、感動を覚えることだろうとおもった。

生き物たちを観察することによって知ることと聞くことによって知ることと、この2つの方法で生き物たちの生活を深く知り、いろいろ感動ができたなら非常に素晴らしいことと思う。そのような理由で、今、野鳥、セミ、カエル、コオロギ、キリギリスなどの声の入ったCDを聞きながら勉強中である。

琵琶湖へ

尾張支部 鬼頭 弘

台風10号が近づいてきている8月7日に、名古屋を発った。東名阪を経て四日市から鈴鹿スカイラインを通過して大津に向かうのである。

名阪の大山田辺りから見るならかな山々は薄緑色できれいである。何かと思ってみると竹であった。山裾にかたまって生えている竹林をよく見かけますが、この辺りの竹は周りを木が席卷して、一面の竹林を作っている。昔のように竹の世話をしなくなったためだろうと思うが山裾に慎ましくある竹林の面影はなく興醒めな景色である。人が利用したものは人が最後まで面倒を見ていかなくてはいけないのではないのかなと思う。

鈴鹿の山が近づくと稲穂がたち、赤とんぼが目につくようになる。季節の暦は、着実に歩を進めているようだ。

湯の山温泉に入る道を右に曲がっていくと山が深くなり鈴鹿スカイラインに入る。小雨がぱらつきだした。天候のせいかどうか、他に走る

車が少なく時速25キロくらいのスピードであちこちを見ながらゆっくり登った。(車は燃料を節約するのが肝心と去年買ったこの車は、坂道が苦手。)

山際はゆるく曲がったとたん、前方に子ざるを連れたニホンザルの一群れが目に入った。こんなときは、みんなでわけもなく感激してしまう。(カメラはトランクのなか、涙を飲む。)

峠の武平トンネルを抜けると雨もやんで青空も見えてきた。三重県側と違って、植林が目立つようになる。やっぱり自然林がいい。いろいろな木があるほうがいいと思う。

琵琶湖はヨットの白い帆が、湖面に踊っていた。湖の東に広がる水田地帯は気持ちがいい。一度住んでみたいところのリストに登録・・・ここで一泊。

帰路は、台風に追いかけられるように関ヶ原を抜け濃尾平野に至る。

夏の研修旅行(8月8日～9日)

東三河支部 岩瀬 直司

東三河支部恒例の『夏期研修旅行』が、今年は16名の参加のもとに木曽の素晴らしい自然の中で行われました。

8月8日、豊橋市体育館を7時40分に出発。坂下町の阿寺断崖、赤沢自然休養林、寝覚の床で木曽の自然を十分満喫した後、木曽川支流沿にある一軒宿くかもしか温泉に到着。翌日は、妻籠、大平宿を散策して18時30分豊橋に帰りました。全行程450KMとなかなかハードなドライブでしたが、川上屋のお菓子や、そば道場での「ソバ食い放題」もあり、会員相互の親睦も深められ楽しい旅行になりました。

特に、特にここで触れておきたいことは、出発のときから雨、雨…、帰りも雨という「すばらしい天候？」に恵まれたことです。雨の中で行った赤沢自然休養林での森林浴は、人がほとんどいないこともあってか、樹齢300年のヒノキと直接対話できたような満ち足りた気分になりました。

秋の夜に鳴く虫たち

知多支部 相 地 満

1 はじめに

秋の夜の楽しみは、鳴く虫たちの音を探ねて歩くことです。ここで言う鳴く虫たちとはキリギリス・コオロギの仲間のことですが（ついでにケラもいれておきました）、これらの仲間はもう、春3月の終り頃から鳴いています。春がすみの宵に聞く鳴く虫の音も格別ですが、キンヒバリなど種類は限られています。セミ時雨にやや霽りの見られる8月の中旬を過ぎると鳴く虫たちの季節。至る所でその美しい鳴く音を聞くことができます。

2 鳴く虫の種類

名前にこだわる訳ではありませんが美しい鳴く音に触れるとき、その主に出会って見たくなるのは当然のなりゆきです。そして華奢な体を精一杯使って、うち震えるように鳴いている姿を見つけたとき愛着の念は一層高まります。やがてどの音がどの主のものが分かってきます。

下表は、私の観察地における鳴く虫たちのリストです。Ⅰは勤務する学校の周辺、Ⅱは知多自然観察会の観察地とその周辺、Ⅲは私の居住地、Ⅳは東海市にある与五八池周辺ですが昨年11月に埋め立てられ状況は一変しました。いずれも86年～91年の記録から作成しました。

身近な鳴く虫たち (1986～91年)		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
		豊島	岡久比町	伝馬町	木田
キ	ハヤシノウマオイ	+	○		△
	ハタケノウマオイ	△	○		○
	ヤブキリ	△			○
リ	*キリギリス	○	○		○
	ヒメギス	△	○		
ギ	クサキリ	◎	○		◎
	※クビキリギリス	◎	○		○
リ	カヤキリ	△	○		○
	※シブイロカヤキリモドキ	◎	○		◎
ス	サトクダマキモドキ	△	△		△

科	ツユムシ	○	○		○
	セスジツユムシ	○	○		○
	クツワムシ		○		
	ホシササキリ	◎	○		◎
コ	ウスイロササキリ		△		
	エンマコオロギ	◎	◎	◎	◎
	ミツカドコオロギ	◎	◎	◎	◎
	ハラオカメコオロギ	◎	◎	◎	◎
オ	ツツレサセコオロギ	◎	◎	◎	◎
	タンボコオロギ		○		
	クマコオロギ	○			○
	マダラスズ	◎	◎	◎	◎
ロ	ヒゲシロスズ	○			
	シバスズ	◎	◎	◎	◎
	ヤチスズ	○	◎		○
	クサヒバリ	○	○		○
ギ	*キンヒバリ	◎	○		◎
	カネタタキ	◎	◎	◎	○
	クマスズムシ	○	○		○
	アオマツムシ	◎	◎	◎	◎
科	マツムシ	○	○		○
	スズムシ	○	○		○
	カンタン	○	○	△	○
	ケラ	○	○		○
総 種 数 34		31	31	9	29

◎、よく聞くことができる、○、普通によく聞くことができる、△、少ないが聞くことができる、+、かつて聞くことができたが記録できていない、※、稀鳴く、*、屋鳴く、

3 おわりに

『愛知県の自然環境』（84年愛知県）には他にキリギリス科で30種中16種、コオロギ科で22種中4種の記載があります。ササキリ4種・ササキリモドキ3種の見分け、聞き分けは大変で、上の表にはホシササキ・ウスイロササキリしか掲げてありません。またナツノツツレサセ・ヤマトヒバリも確定できずにいます。

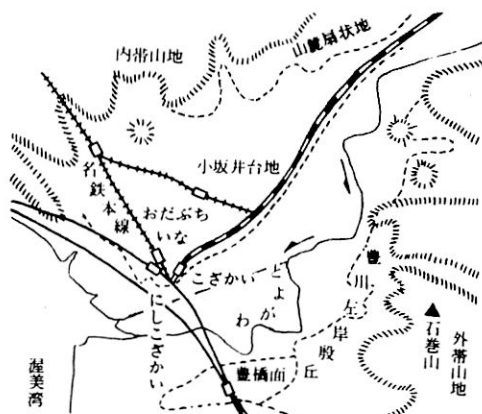
何れにせよ実際に飼ってみて確かめてみるのが基本ですので、聞き分けの力を蓄積するのはなかなか大変ですが、それもしばし、美しい日本の秋に鳴く虫の音に親しみ、いとおしむ気持ちに支えられて続いていくようです。8/10

小坂井町の自然

東三河支部 神戸 敦

泉のこと

宝飯郡小坂井町は、豊川の右岸に発達する小坂井台地上に発達している。この台地と一段低い豊川低地の間には5m内外の段差があり、その台地の端、即ち段丘崖には、数多くの泉がある。小坂井台地に降った雨は、小坂井礫層を通過し、小坂井泥層にたまり段丘崖から湧き出している。小坂井の地名も段丘崖の小さな坂があり、泉＝井戸が多くある所からついたと言われている。この泉には、コンクリートで仕切られた『洗い場』がつくられ、豊富な湧き水で野菜洗い・洗濯・時にはノリ養殖やカイコの飼育道具を洗ったという。



地形概念図（小坂井町誌より）



五社稲荷のある小坂井台地と豊川低地

地元の人は、泉を大切にし泉には必ず祠がある。また、そこに自生する水草を大切に「泉の水草を取らないように」と看板が立てられていたりする。このような泉に異変が起きたのは昭和30年代。大工場による地下水汲み上げによる水量の減少、さらに菟足神社と五社稲荷の間に掘割り式で国道一号線がつくられ地下水脈が切られ、いくつかの泉が枯れてしまった。一号線によって切られた水脈の水は今、菟足神社の下に導かれ、そこから湧き出している。神社に車を止めればとっと早く観察できる。

岸の道

段丘崖の下の道を地元の人は岸の道と呼ぶ。今は、海岸と遠く離れているが、かつては近くまで海が来ていたのだろう。その海で人々は魚介類を採り、泉から水を得てその周辺で生活し、集落を形成していたと考えられる。段丘崖には、古代人の生活の跡の貝塚が多くある。そして、集落と集落を結んだのがこの岸の道であろう。またその集落の中心に、信仰の対象として神社や寺が建てられたと思われる。だから、泉のある段丘崖の部分には不思議なほど多くの古い社寺が建っている。

オドリコソウの群落

社寺のある部分は段丘崖ということもあり、住宅地化が進んだ小坂井のなかで、辛うじて自然を残している。アラカシやクロガネモチを中心とした五社稲荷の森やケヤキやムクノキが目立つ菟足



オドリコソウ

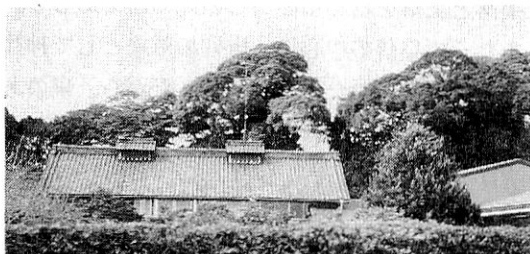
神社の森がそれである。また段丘崖に沿ってクロガネモチ・イチョウ・エノキ等の巨木が残っていたり、4月末にはオドリコソウの群落が一面に花を咲かせる。段丘崖は小坂井の貴重な自然なのである。

ミミズバイ

小坂井台地の上は、宅地化が進んでしまったが東漸寺の森は自然林として残っている。森の中はシイが優占し、本堂裏の庭園周辺にはミミズバイやイヌマキの巨木がみられる。境内には竹林と照葉樹林の部分があり竹林にはゴイサギやコサギのコロニーがある。戦後の農地解放で境内の面積が半分になったそうで、かつてはムササビも棲む豊かな大きな森であったという。

屋敷林

三河の空っ風は強い。特に、小坂井は強い。数は少なくなったが町内には幾つかの屋敷林が残っている。特に、伊奈の町営テニスコート付近の数軒のお宅は立派。外から見てもホッとした気持ちにさせられる。屋敷林を構成する樹種は、シイ・タブ・ヤマモモ・アラカシ・ヤマモモ等照葉樹である。



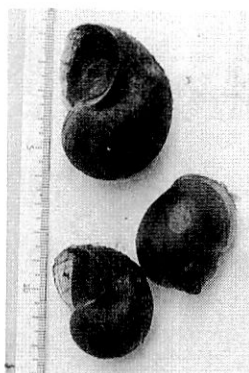
伊奈の屋敷林

ジャンボタニシ

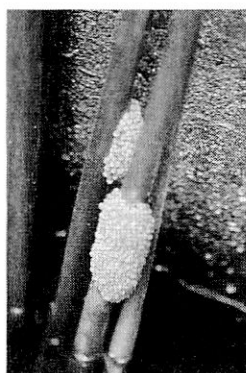
昭和58年頃、地元の方から鮮やかな赤色の卵塊を持ち込まれた。庭の池の縁に付いていたという。陸上に産卵するから、陸上動物に違いないが・・・昆虫の仲間か・・・さて何だろう。四苦八苦のすえ、S先生に電話で聞いてみた。

「そういうの台湾で見たよ・・・タニシだと思うけど・・・」の返事。そのうち、地元で食用のジャンボタニシというタニシの養殖場があることを知った。そのうち、田んぼや側溝で赤い卵塊

やジャンボタニシそのものを、あちこちで目にするようになった。目にする場所は、養殖場より下流にあたり稚貝が流れにのって運ばれてくることもわかった。前述の池の場合、子供が川で魚を捕まえ池に入れた時、一緒に稚貝も入ってしまったようである。その頃のラジオで、西三河の〇市では大食漢のジャンボタニシを生ゴミの処理につかい大きくなったものを「淡水サザエ」の名で食用にしているとの報道もあった。養殖を止めた60年代にはいると、新聞はジャンボタニシは稲の苗を食い荒らすという内容で盛んに報道し、県議会でもその被害対策が取り上げられた。その後、豊橋市は数百万の予算を計上しジャンボタニシ退治をしている。まだ、はっきりしない部分が多いが、ジャンボタニシの横顔を紹介する。



ジャンボタニシ



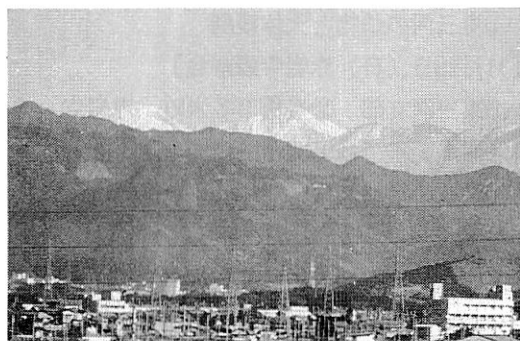
ジャンボタニシの卵塊

通称ジャンボタニシは当初、ラプラタリンゴガイ *Ampullarius insularis* (D'ORBIGNY) と呼ばれていたが(宮崎1985)、1985年10月スクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata* (LAMARCK) と名称変更になった(波部1986)。原産地はアルゼンチン・ウルグアイ等南米で淡水性巻貝である。日本には昭和55年頃、台湾経由で持ち込まれたようである。成育の適水温は25～27℃である。低温の冬場は土中で越冬をする。抽水植物の空中部分の茎やコンクリートの側壁に夜間、産卵する。1つの卵塊は、多いものは660個、少ないものは170個程で、平均約380個の卵からなり相当な繁殖力である。産卵直後は鮮やかな赤色であるが、時間とともに色があせ白くな

りポロッと水面に落ちふ化する。小坂井では、5月頃から産卵し条件によって違うが、約20日でふ化する。ふ化後、2か月で母貝になる。草食で、いろいろなものを食べる。実験室での飼育ではキャベツを主に与えた。水中で交尾し、交尾時間は長く、自然状態であちこちで見かけることができる。

豊川低地

豊川低地は殆ど田んぼである。その中を豊川放水路が通っている。豊川の下流域を洪水から守る目的で28年の歳月と28億円を費やし、昭和41年に放水路は完成した。堤防は年に2～3回刈り込まれ、野火もいれられ、草原の状態が維持されている。ここは、生物にとっては貴重な場所で、カルガモが巣作りをしたり、オオヨシキリやセッカが飛び交っている。また、周辺の田んぼをふくめてサギ類・シギ類といった水鳥が多く観察できる。



豊川低地から望む聖岳

堤防から北東方向を見ると、左に本宮山塊、右に弓張山塊そして間に豊川上流を眺めることができる。また、この豊川の流路は中央構造線が走っている所でもある。空気の澄んだ冬場、豊川上流の更にその奥に、直線距離で100 km先の南アルプスの聖岳を見ることができる。

都市化の中の自然

小坂井町は東海道線・飯田線・名鉄の走る交通の要所である。小坂井台地上は宅地化され、豊川低地にも企業が進出してきている。人口密度は東三河で第1位である。この町の自然は段丘崖が中心であるが、そこも次々開発され、社寺林の部分が僅かに残っているに過ぎない。小

坂井町に限らず、都市化していく所では行政サイドで積極的に森づくりをやっていかなければ開発に先を越されてしまう。森づくりを是非お願いしたい町である。とくに、段丘崖の社寺林・泉・豊川低地が一体化した森林公園が出来ればと思っている。

～編集後記～

★早いもので、もう秋。食欲の秋。読書の秋。貴方は、何の秋にしますか？

★東三河支部の研修旅行は10ページの岩瀬さんの報告にあるように雨、雨の2日間でした。しかし、雨に洗われた山の緑は一段と冴え、新鮮に感じました。赤沢休養林の森林鉄道、運賃が1,200円で高い！と思いましたが、限られた乗客で、あれだけの施設を維持していくには、仕方ないのかも知れません。運賃と考えず、森林浴代と考えることにしました。その証拠に、我々は雨の中、帰りの汽車が来ないばかりに、誰も歩かない道をトボトボ歩いたもんね。

★1ページでお願いしたように、「愛知の自然観察」に投稿をよろしく！

お願い、その2：32号（91.3月号）から素晴らしい植物画で表紙を飾って下さっている、後藤春さんが一応、43号（93.1月号）で区切りにしたいとの申し出がありました。残念ではありますが、12枚もお書き頂きましたので余りご無理は言えません。そこで、44号から表紙を担当して頂ける方を募集します。どうぞ、申し出ください。

お願い、その3：2年間の約束で始めた私の編集担当もあと2回の発行を残すのみになりました。協議会ニュースの編集を担当して下さる方、編集部会まで、ご連絡ください。

★何でも結構です。どしどし投稿をお願いします。次号は10月10日が原稿締切りです。

【編集部会】 神戸 敦 ☎0532-62-5308

〒440 豊橋市多米中町1-12-3

9月～11月の行事案内

*他支部の行事にも参加出来ますが、急な変更があるかもしれませんので照会の上、御参加下さい。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先

④行事のねらい ⑤参加資格・費用 ⑥備考

【9月5日(土) 豊橋文化フォーラム「みどりがまちを創る」】

①豊橋市 ②豊橋市民文化会館13:00

③豊橋市教委文化振興課 ☎0532-61-5111

④オープニングセレモニー(ミコサート)

基調講演: 梅原猛「まちづくりと市民文化」

パネリスト 意見発表: 花田邦司・高津政義

富田真知子・中西正

【9月11日(金) 月と星の観望】

①知多支部 ②半田空の科学館18:00～

⑤会員研修

【9月13日(日) 面ノ木観察会】

①尾張支部 ②面ノ木峠駐車場

③鬼頭 弘 ☎05613-8-2792

④ブナ林の秋の草花を楽しもう

【10月4日(日) タカの渡りと地質観察】

①知多支部 ②美浜町富具崎港駐車場6:00

⑤一般・無料

【10月9日(金) 会員研修会】

①知多支部 ②阿久比町中央公民館18:30

④土壌生物の観察

【10月10日(土) 渥美の自然を守れ! 伊良湖フォーラム92】

①渥美自然の会 ②伊良湖国民休暇村12:30

③大羽康利 ☎053145-2607

④講演「伊良湖での芭蕉と西行」 齊藤公男・

「野鳥識別調査からみた伊良湖の渡り」 倉橋

義弘・「タカ類の渡り日本と世界」(仮題)

志村英夫、報告「渥美自然の会の取組み」

⑤入場無料、会場でカンパを訴えさせていただきます。

【10月11日(日) 定光寺観察会】

①尾張支部 ②JR定光寺駅

③松尾 初 ☎0568-32-5069

④みんなで拾おう、いろいろなドングリ

【10月25日(日) 会員研修会】

①東三河支部 ②豊川賀茂橋下流

③岩崎貞郎 ☎0532-62-1254

④アユの産卵調査

【10月25日(日) 緑の少年団交流自然観察会】

①知多支部 ②大府運動公園9:00

【11月8日(日) 岩屋堂観察会】

①県委託・尾張支部 ②岩屋堂無料駐車場

③大谷敏和 ☎0572-23-6907

④木や草の実調べ、落ち葉を食べるのは誰?

【11月14日(土)～15日(日) 会員研修会】

①知多支部 ②東海市農業センター

④奥三河の動物と天体観測

【11月29日(日) 赤岩寺観察会】

①東三河支部 ②豊橋市多米町 赤岩寺

③間瀬美子 ☎0532-45-1335

④晩秋の自然観察



～会員の動き～

【住所変更】

鈴木 成和(尾張支部)

〒464 名古屋市千種区春里町2丁目5番10

春里ハイツ304号 ☎052-752-1036

【脱退】

下平 芳久(尾張支部)

※お詫び

40号の垣見 宏さん(名古屋支部)の〒456

は〒464の誤りでした。